

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104117		
法人名	社会福祉法人 豊友会		
事業所名	グループホーム喜楽園		
所在地	山口県下関市豊田町大字中村819番地		
自己評価作成日		評価結果市町受理日	平成26年11月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年4月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に支え、共に生きる」の理念のもと、やさしい言葉かけと思いやりの心を念頭に入居者様一人ひとりが、その人らしく今を大切に楽しい時間を過ごして頂けるようサービス提供を行っています。前年に引き続き毎月の調理やおやつ作りでは、手際も良くなり、楽しんで調理している様子が見られます。季節ごとの外出をはじめ趣味活動も、書道・トランプ・カラオケ・畑仕事など活動も増え、日々の暮らしに変化があるよう努めています。OKIRAKU喫茶も昨年5月にオープンし、一人ひとりがお小遣いを持って、喫茶に行くのを心待ちにしています。天気の良い日は、自然豊かな施設内外を散歩し外気に触れるようにし、笑顔で穏やかに、自分らしさを失うことのないように支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人主催の月1回の「サロンコンサート」や「OKIRAKU喫茶」は、利用者や地域の人たちが楽しみに参加されている他、年1回の「喜楽園祭り」では地域の人の協力で屋台の出店があり、ソーマン流では中学生の協力があるなど、地域からたくさんの人が参加され、協力して交流を楽しんでおられます。利用者は自治会行事の餅つきや敬老会に参加しておられる他、小学校の学習発表会に出かけて交流されるなど、地域づきあいや地元住民との交流に取り組んでおられます。月1回の食事づくりやおやつづくりは利用者が心待ちにしておられ、献立から買物、自分たちで作った野菜を収穫して使用され、調理を楽しまれています。職員は利用者から学ぶ姿勢で活躍できる場面づくりに取り組んでおられ、理よ社が張合いや喜びのある日々を過ごせるように支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と基本方針をホーム内に掲示している。名刺サイズに印刷したものを名刺に入れ携帯し、常に方針に即した介護が出来ているか自己評価できるようにしている。朝礼で唱和し、意識の徹底に努めている。グループホーム独自に「しっかりみつめ、理解できるように話しかける」を目標に掲げ支援している。	地域密着型サービスの意義をふまえた法人の理念や基本方針を事業所内に掲示し、朝礼時やミーティング時に唱和し共有している。理念や基本方針を基に、全職員で話し合っ て事業所独自の具体的なケア指針をつくり、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小中・高校生に、ボランティアや職場体験・訪問などで交流している。月1回サロンコンサートやOKIRAKU喫茶を開催して地域の方にも来て頂き交流を図っている。また、12月には地元自治会の誘いで、餅つきに参加した。	自治会に加入し、自治会行事の餅つきや敬老会に参加している。小学校の学習発表会に利用者と職員が一緒に出かけて交流している。法人の月1回のサロンコンサートや月1回の喫茶OKIRAKU喫茶、年1回の喜楽園祭りには地域の協力で屋台の出店があるなど、たくさんの地域の人の参加があり交流している。ボランティア(フラメンコ、ギタリスト)の来訪や小学生の来訪(ゲームや笛、トランプなど)があり、ソーメン流しに協力している中学生とも交流している。近所の人とは、散歩時に挨拶を交わし、通学時の子どもたちに声かけをしている他、野菜や花の差し入れがあるなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	H24年度には、職員全員が認知症サポーターになり、H25年度には、一人キャラバンメイトになった。来年度は、認知症サポーターの輪を地域へと広げていく予定。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価は運営者・管理者・職員ともに園の実践状況を客観的に把握できる機会ととらえ、日常のケア業務の振り返りをしている。外部評価結果や、改善策もミーティングで検討し改善に向けた取り組みをしている。	管理者は評価の意義を説明した後、全職員に自己評価をするための書類に記入してもらい、計画作成担当者、リーダーと一緒にまとめている。前回の評価結果を受けて、全職員での自己評価への取り組みや事故防止に向けた研修の実施、災害時の地域との協力体制の構築に向けた取組みなど、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に1回運営推進会議を開催し、日々の活動の写真を取り入れた資料を作成し取り組みの内容を報告している。また、地域の要望など意見交換し、地域の行事への参加・施設行事への参加など日々の実践に反映させるようにしている。	隣接している法人施設と合同で年6回開催している。利用者の状況や行事予定、実施報告、外部評価の報告等をして、意見交換している。テーマによって消防署や警察の参加もあり、利用者の活動状況はカラー写真で紹介しているなどの工夫をしている。家族には全員に案内を出し、欠席の家族には会議録を送付している。地域行事の紹介や利用者の活動状況をよく知りたいなどの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスに関する内容や介護保険制度等、市担当者と連携を図るようにしている。サロンコンサートや行事のパンフレット等を毎回担当者へお渡しし、また町が窓口の地域の有線放送にて、行事案内を放送して頂いている。今後さらに協力関係を築きサービスの向上に努めていく。	市担当課とは、運営推進会議時の他、直接出かけて申請手続きや今後の介護保険の展開、法の解釈、事例相談等を行い、助言を得ている他、情報交換をして、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議時や福祉連絡会議時、グループホーム研修会時に情報交換や事例相談している他、有線放送での事業所紹介、蜂の駆除等の相談をしているなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のミーティングにて、施錠しないケアの大切さやスピーチロックや身体拘束についての話し合いを行っている。玄関の施錠も含め拘束しない介護に取り組んでいる。特に言葉掛けには、気付いた職員がお互いに声を掛けあい注意している。	内部研修や月1回のミーティング時に話し合いを行い、職員は身体拘束の内容や弊害について理解している。玄関には施錠をしないで外出したい利用者と一緒に出かける他、気分転換を図るなどの工夫をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者が指導し、職員間でもお互いに注意合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、ミーティングでも話し合い虐待防止について理解し、対応の仕方や言葉使いに気をつけ、入居者様の表情や発言などから、ささいな変化を見逃さないように気を付けている。また、職員の価値観や思い込みで対応しないなど、虐待・拘束が起らない努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に成年後見制度を利用されている方はいないが、外部研修において学ぶ機会を設けている。権利擁護週間には、社会福祉協議会や地元の権利擁護委員の方が来られ話し合いをした。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書などをもとに丁寧に説明を行い、同意書に署名・捺印を頂くようにしている。疑問点はしっかり答え、理解、納得して頂けているよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム苦情申し立て窓口を置き、また第三者委員などを説明していつでも気軽に苦情など申し出て頂ける環境を作っている。また、苦情箱ではなく意見箱を設置している。入居者様からは、いつでもどの職員にでも言い易い環境を整えるよう気配りをしている。	苦情や相談の受付体制や処理手続きを定め、第三者委員や外部機関を明示して周知し、契約時に家族に説明をしている。意見箱を設置している。運営推進会議時や事業所行事、月1回の面会時、電話等で家族から意見や要望を聞いている。管理者は、日頃から利用者の状況を家族に伝えている他、月1回、事業所だよりを送付し利用者の活動状況を報告して意見が言いやすいように配慮している。運営に反映させるまでの意見は出していないが、意見や要望を日常のケアに反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回面談を行い意見を聞く機会を設けている。また、毎月のミーティング・毎日の朝礼で意見が出やすいような環境を作っている。職員から挙げた意見を基に整理棚を事務所に付け、業務改善に取り組んでいる。また、管理者の携帯は、いつでも気軽に連絡が取れるようにしている。	管理者は、月1回のミーティング時や朝礼時、6ヶ月毎の面談時に、職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、いつでも意見が言えるように努めている。安全な環境のために蜂巣の駆除、ゲーム内容の充実、テーブルの購入、整頓のための整理棚の設置、清潔保持のための食事搬入時のマット購入、職員の事情に配慮した勤務体制等の意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談などの機会を持ち、その時の意見や提案を参考にし、向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関しては、勤務調整して受講しやすい環境を作っている。研修に関しては、情報は全て回覧し職員に伝え希望者はできる限り研修受講してもらっている。法人全体で必要時にはいつでも、経験年数の長い職員が個別の指導にあたっている。	外部研修は情報を伝え、段階や希望に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は内部研修で復命報告をし、資料はいつでも閲覧できるようにして共有している。法人研修は月1回、高齢者虐待や感染症、権利擁護、接遇、応急手当、防火管理等を実施している。内部研修は月1回15分間、ユマニチュードやスピーチロック、介護保険制度やケアプラン、接遇、応急手当等を実施している。日々のケアを通して職員間で共に考えて介護技術の向上に取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会などの研修に参加し、同業者との交流の機会を設けている。今後は、互いの施設での困難事例や悩んでいることなど、対応策を相互み電話や訪問にて、協議できるよう情報交換の場所作りに取り組んでいきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人の話をゆっくり、しっかり聞くことを心がけ、入居への大きな環境変化を最小限に抑え生活に馴染めるよう関係作りに努めている。不安のある利用者へは個別に対応し、日々しっかり観察し生活上の困っていることを把握するよう努め、安心して生活して頂けるよう図っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族との話し合いを持ち、施設の方針等を理解して頂き、困っていること、不安なこと、要望などを聞きながら、ケアプランに反映することにより相互の信頼関係を築くよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望をしっかり受け止め、見極めることは難しいが1つ1つ確認し合いながら、話を進めている。言葉のすれ違いがないよう細かい所まで話し合うよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来ることは一緒に行い、洗濯 たみ・おやつ作り・料理作りでは職員が教 えてもらうなど、支えあいの関係を築いてい る。また、入居者様と職員は一緒に生活する という意識を持ち、食事はいつも一緒に会話 を楽しみながら行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会に来られた際に、ご家族にご本人の状 態をしっかり話す事を心がけている。12月 にはクリスマス・忘年会を行い、入居者様、ご 家族様・職員と一緒に過ごし共に支え合う関 係を築いている。また、グループホーム新聞 を作成し、日々の様子を		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会ではできる限り時間を制限せず、本人自らの 外出の機会を多く作り、生活環境の継続 や、社会とのつながりを大切にしている。面 会に来られた方やご家族にお礼の手紙を書 いて関係が途切れないよう支援している。	家族や親戚の人、友人、知人の来訪がある 他、電話の取次ぎや手紙、暑中見舞い、年賀 状、小学生への手紙の返事などの支援をして いる。馴染みのスーパーでの買物や住んで いた地域へのドライブ、馴染みの店での食 事、家族の協力を得て友人に会いに行く、馴 染みの美容院の利用、買物、盆、正月の外 泊、墓参り、結婚式や法事に参加するなど馴 染みの人や場所との関係が継続できるように 支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者様同士の相性を考慮した外出や趣 味活動を通じお互いに協力、支え合うよう支 援し、生活にメリハリを持たせるようにしてい る。テレビの前にソファを置く等、集まって 話が出来よう工夫している。また、居室で のプライベートな空間や時間へも顧慮するよ うに心がけている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去された、ご家族に施設での行 事の案内を送り、関係性を大切にしよう心 掛けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員とケアマネとが、ご本人の意向や思いを汲み取るよう努め、そして希望や気持ちを受け止めて支援内容に活かすよう取り組んでいる。本人の希望を中心とした暮らしができるよう柔軟に対応できるよう努めている。	入居時のアセスメントで家族や本人から趣味や特技、好きな事、苦手なこと等を聞いて暮らしの情報シートに記録している他、フェイスシートの情報を活用し、本人の思いや意向の把握に努めている。入居後は日々のケアを通しての会話や余暇活動の中での表情等を経過記録に記録し、思いの把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い本人本意に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談の際にご家族より、生活歴や暮らしぶりの把握に努め、居室内に装飾や生活習慣等、本人らしさを残すことを大切にしている。入居後も、できるだけ情報収集するように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを行い、一人ひとりの一日の暮らしや生活のリズムを把握するよう努めている。また、ケアプランの内容を実施し、適切に支援できているかモニタリングしていくことにも努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の想いを基に、ご家族からの意見を聞き、職員が入居者様の現状を把握すると共に、カンファレンスを通じて問題点や改善点を話し合い、介護計画を作成している。	利用者を担当する職員とリーダー、計画作成担当者が中心となって、月1回、ケアカンファレンスを行い、利用者や家族の思い、主治医、作業療法士、看護師等の意見を参考にして職員全員で話し合い、介護計画を作成している。日々の記録にケアプランの番号を記録して実施記録とし、3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しをしている。本人の状態や状況に変化が生じた場合は、その都度現状にあった計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃から暮らしの様子や、食事・排泄等介護記録、経過記録に記入している。職員の気付きは連絡帳を通じ、職員間で情報の共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況・要望を取り入れ、買い物等の外出には、その日のご本人の気分によってのニーズに柔軟に、臨機応変に対応できるよう職員間で話し合いをして支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議を中心に、地域との情報交換が拡がり、地域のお餅つきに参加した。近隣のスーパーへの買い物や飲食店への外食など活用し、馴染みの関係を維持し、新たな関係作りにも取り組んでいる。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、事業所の協力医の他、ご本人が望む医療が受けられるようにしている。内科以外では、ご家族と相談しながら、本人に適切な病院で受診できるよう配慮している。	本人、家族の希望するかかりつけ医とし、他科受診も含めて家族の協力を得て受診の支援をしている。協力医療機関からは医療相談や緊急時の対応の協力を得ている。受診結果は家族と共有して適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、入居者様の変化を見逃さないように気をつけ、少しでも変化があった場合には、併設施設看護師に相談に行き、医療機関への連絡、調整を行っている。健康管理としてバイタルチェックや医師の往診時の対応は介護職員で行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の備えとして、町内にある総合病院の地域連携室との連絡体制をとっている。また、職員が面会に行くことにより入居者様の不安や変化など現状把握し、退院後のケアにつなげている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについては、ご本人ご家族が最後に何を望むか、しっかり確認し、意思統一をはかりながら支援できるような体制を整えていきたい。各医療機関とも密に連携を取れるよう、体制は整えている。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族と話し合い、方針を共有し法人関連施設や医療機関等への移設も含めて支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	「全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の実施」を目標に取り組んでいる。併設施設の看護師にりより、臨時対応を教わり、実践力を身につけるよう努めている。	事故、ヒヤリハット報告書に発生状況や対応策を記録して回覧し共有している。月1回のミーティングで対応策について再度話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。法人の看護師による応急手当や初期対応の研修を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応マニュアルを整備し、地域の方を交えて避難訓練を行い、消火器の使用方法や利用者の救出方法等学び、災害発生時の連絡体制を確立した。	年2回、消防署の協力を得て昼夜の火災、水害を想定した訓練を実施している。避難訓練、消火器の取り扱い方、避難経路の確認、通報訓練を利用者や地域の人と一緒に実施している。地域の人には、救出や見守りをお願いしている。地域の協力が得られるよう、災害時におけるサポーター制度を計画し募集をはじめている。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念をホームに掲示している。名刺サイズに印刷した名札にゆっくりと理解できるように話し、ご本人の意思を確認して行動に移すようにしている。	法人研修(接遇)や理念についての話し合いを通して、職員は、人格の尊重とプライバシーの確保について理解しており、言葉かけや対応に気をつけている。利用者の個別情報については保管した取り扱いに注意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位でなく、いろいろな場面で、ご本人が選択することができる言葉かけを心がけている。ご本人の些細な表情や言葉を見逃さないよういつも気を付けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は決まっているが入居者に無理強いをするのではなく、その人に合ったペースで支援していけるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用されている方が多く、ご本人さんの希望にそえるよう、また、馴染みの関係が築けるよう支援している。毎朝髪をとき身だしなみを整えている。毎朝洋服選びは、職員と一緒に選んでいる方もいる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、テーブル拭き等それぞれの人ができることをして頂いている。食事前には歌を唄っている。職員は入居者様と同じ食事を共にすることで味覚を共有し一人ひとりの好みやペースを把握している。	三食とも法人からの配食を利用し、利用者はテーブル拭き、お茶汲み、盛り付け、お盆拭き、箸を置くなどできることを職員と一緒にしている。利用者の好みや食後の感想を聞いて法人厨房に連絡し献立の参考にしてもらい、朝食の主食(パン、ご飯)を変えたり、治療食、食品交換などの支援をしている。利用者と職員は同じテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。月1回の食事づくり(鍋物、ちらし寿司、煮しめなど)では利用者と職員と一緒に献立を立て、食材の買物に行き、事業所で利用者がつくり収穫した野菜を使って調理している他、月1回のおやつづくりでは黄粉餅や蒸パン、ぜんざい、大学芋などを職員と利用者が一緒につくっている。戸外でのお弁当や移動パン屋の利用、外食など食事が楽しみなものになるように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は委託しており、併設施設の栄養士がバランス等管理している。入居者様一人ひとりに合わせた状態を把握し、食事の量や形状など工夫し、また使いやすいよう食器類の工夫もしている。食事・水分量の摂取量を記録している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに声かけを行い、できる限り職員見守りの中、ご自分で歯を磨いていただいている。また、磨き残しや、ご自分で出来ない方には、職員が口腔ケアを行い清潔保持に努めている。協力歯科医による研修を行った。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別に声かけをしてトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握して、言葉かけの工夫や誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を健康観察チェック表で行っている。職員が状況を見ながら、水分補給を促したり、レクリエーションやテレビ体操で適度な運動を取り入れている。また、食事には牛乳や乳製品を取り入れており、週1度外部のヤクルト販売も利用している。天気の良い日は、できる限り施設内やその周辺を散歩している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しては、曜日や時間を決め対応しているが、ご本人の希望があれば随時入浴して頂いている。温泉が出ており、マイクロバブルバスの入浴や、ご本人の希望があればアロマオイルを入れリラックスした気分で入浴して頂いている。	入浴は毎日14時から16時までの間可能で、利用者の体調や希望に合わせて週2回は入浴できるように支援している。温泉(冷泉)を引き、マイクロバブルバスの装置があるなど肌の活性化やくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には無理強いをしないで言葉かけの工夫や時間をずらすなどの対応をしている。状態によっては清拭や足浴を行い、一人ひとりに応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や状態に応じ居間のソファや居間のベッドで休息してもらっている。また、安眠できるよう入居前に使われていた馴染みの枕や毛布を持って来て頂いている。シーツが汚れた時には、こまめに交換し、天気の良い日は布団を干している。居室では本人に応じた室内温度を設定している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧をファイルして、職員全員が飲まれている薬に対する理解に努めている。臨時薬が出た時は連絡帳に記入し職員全員に周知している。服薬の際は一人ひとりの名前を呼び、服薬ミスのない様している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除、カラオケ、ぬり絵、折り紙、習字、写経、トランプ、カルタ、お手玉、卓球、グランドゴルフ、畑仕事、料理盛り付け、体操など多くの選択肢を用意し、一人ひとりの好みに合わせた支援ができるよう、また良い関わりができるよう、ミーティングにて内容検討を行っている。	テレビ視聴や新聞、本を読む、歌を歌う、ラジオ体操、お茶の時間を楽しむ、草取り、野菜づくり、野菜の収穫、緑のカーテンづくり、手作りの誕生日会、ボランティアの来訪、季節行事(節分、雛祭り、花火大会、忘年会)、秋刀魚祭り、干し柿作り、おやつ作り、おきらくカフェの利用、サロンコンサートなど楽しみ事や活躍できる場面を多くつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、近隣のドライブ等の外出は本人の意向を大事にし、柔軟に対応し四季折々の風物に触れる機会を増やしている。また、家族の協力を得て、ご本人の希望を聞き取り外出・外食など出かけている。	周辺の散歩や買物、季節の花見(桜、梅、菜の花、菖蒲、コスモス、紅葉)、ドライブ(川棚、クスの森、東行庵、華山、法輪寺)、道の駅、りんご狩り、初詣、外食の他、家族の協力を得て買物や外食、外泊等、希望にあわせて戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いにより、居室にお金を置いて頂き、買い物に出かけたり、週1度来る移動販売のパン屋等を利用し、一緒に品物を選びながら買い物の支援をしている。月1回併設施設で開催されるOKIRAKU喫茶に出掛けている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、ご家族と電話で話ができるよう支援している。手紙、暑中見舞、年賀状もご家族や知人に出している。また、近隣の小学生から年賀状を頂き返事を出している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日居間の温度・湿度をチェックし快適に過ごせるよう窓を開けたり、床暖房やエアコンを使用し、健康的な環境を保つように努めている。居間には、季節の花を飾るよう気を付けている。昨年末には脱衣場に手すりを付け安全に入浴できるよう工夫した。	リビングは広く、大きなガラス窓からは自然光が入って明るく、田園風景が見えて季節の移り変わりを感じることができる。室内には季節の花を飾り、テレビや机、椅子、ソファを配置し、思い思いの場所でくつろげるようになっている。台所はリビングに面して広く、食事の準備やおやつづくりなど、使いやすい造りになっている。壁面のボードには利用者の作品である写経や習字、行事の写真を飾って、温度や湿度、換気に配慮して、安心して居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に本や雑誌コーナーを設け、好きな時に読んで頂くようにしている。ソファや食席等、気の合った者同士が近くに居られるように気を配っている。また、ご入居様ごとのお気に入りの場所を把握し、できる限りその場所で過ごせるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた家具やご主人手作りのテレビ台など思い出の物を持って来て頂き、一人ひとりが居心地良く過ごせる空間にしている。	テレビ、冷蔵庫、タンス、畳カーペット、炬燵、収納ボックス、サイドボード、机、電気スタンド、歩行補助機、杖、仏壇、など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、雑誌や花瓶、小物の飾り物、自作品を飾って居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下や浴室、トイレは手すりがあり安全に移動して頂くようにしている。また、浴室の脱衣所に手すりをつけ、安全に着替えが出来るよう配慮した。ご本人ができることは、できるだけ自分でやって頂くよう必要に応じた見守り、介助を行っている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム喜楽園

作成日： 平成 26年 10月 14日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が実践力を身に付ける為の応急手当や初期対応の定期的な訓練をさらに充実させる。	全職員が応急手当や初期対応が出来るようにする。	事故防止対応委員より勉強会を実施する。 併設の特養看護師の協力を得て緊急時の対応について実施訓練を行う。	1年
2	36	地域との協力体制の構築をさらに深める。	地域住民の協力を得て一緒に訓練を行う。 地域の方が気軽に来ていただく機会を設ける。	年2回消防署の協力を得て昼夜の火災、水害を想定した避難訓練の実施。 その際には地域住民や保育園の方と協力し訓練を行う。 サロンコンサートやOKIRAKU喫茶等にて地域の方、職員、入居者様との交流を深める。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。